



Title	＜書評＞「遠き落日」（渡辺淳一著，角川文庫，上下各470円）
Author(s)	藤崎， 葉子
Citation	大阪公衆衛生. 1993, 63, p. 22-22
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83845
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『遠き落日』

渡辺淳一著

角川文庫 上下各470円

先日、中学2年生の子供に誘われて「遠き落日」の映画を見ました。

ずっと以前に何気なく、選んで読んだ原作が映像とともに甦ってきました。

それは、皆さんもよくご存知の野口英世博士の伝記でした。でも、そこには、今まで私知っていた博士ではなく、頭脳優秀・勤勉努力というすばらしい長所と自信過剰と人の好意をとことん利用するという欠点を持った自己本位の人間があったのです。

そして、なぜアメリカへ渡って行ったのか経過等綴られていました。

でも、そんな博士の姿を見つめてきた母の愛情がひしひしと伝わってくるのは、文字が書けなかった母が独学でアメリカにいる博士に書いた「帰って来てください。」とたどたどしい手紙で懇願するところです。いつの時代も変わらないのは母と子の絆と愛情なんですね。

映画を見たあと「原作にはもっと詳しく調べられたことが書いてあったよ。」と言うと子供も原作が読みたいと言うので、本棚の奥から取り出してやりました。

上下2冊ありますが、渡辺淳一の流麗で緻密な表現は、活字離れの年代と言われる私たち親と子が共有して読み感想を言い合えるものだと思います。今後もこのような良い本が見つかりますよう親子で何気なく書店に行き、選んでみたいと思います。

(東大阪市保健衛生総務課 藤崎葉子)